

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 4390100818 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 健成会 | | |
| 事業所名 | グループホームほがらか | | |
| 所在地 | 熊本県熊本市南区御幸笛田6丁目6番88号 | | |
| 自己評価作成日 | 令和4年1月17日 | 評価結果市町村受理日 | 令和4年3月22日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaignokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|----------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」 |
| 所在地 | 熊本県熊本市中央区水前寺3丁目15-1 |
| 訪問調査日 | 令和4年2月17日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

みゆきの里の医療・保健・福祉の各施設は、地域に開かれた社会資源として「健康長寿のまちづくり」を目指しています。その中で、「グループホームほがらか」は、小規模多機能型居宅介護と併設した認知症対応の拠点施設として、運営に当たっています。事業所としては、年間を通して、自律支援ケアの確立に向けた委員会活動を立ち上げ、職員の質の向上に繋がる組織づくりを行っています。また、現在は新型コロナウイルス感染症対策のため休止していますが、認知症対応ボランティア(De-bo:デーボ)の協力を仰ぎ、地域住民との関わりや行事への参加を促すとともに、平成27年度に開設した認知症カフェ「ひまわり」の中で、月2回、みゆきの里内外の方との交流を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員が認知症ケアについての知識を身につけ、利用者に寄り添うケア、理念に謳う「やすらぎ」を提供できるよう、ユマニチュードやパーソン・センタード・ケアについて勉強会を行っている。利用者のできること・できないこと・できそうなことなどを検討し、やってみて、できないと思っていたことができたことでやりがいに繋がる効果が表れている。また、管理者は広報紙「すまいる」を地域の郵便局・コミュニティセンター・スーパーなどに配置するなどホームの情報発信にも力を入れており、コロナが収束して認知症カフェを再開した際は、地域の相談センターとしての機能も果たしたいと考えている。コロナ禍でも状況を見ながら、初詣や桜の花見・紅葉見学などに出かけたり、「夢プラン」として入居者が今やりたいことを聞き取り実現する取組を行うなど、利用者ができるだけ楽しく笑顔で暮らせるよう、努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | みゆきの里創立30周年を機に、目指すべき姿を言語化した理念の実践に向けて、玄関やホールに理念(ミッション)を掲げ、常に実践を目指している。 | 法人の理念及びグループホームの理念を玄関・リビング・事務所など目につきやすいところに掲示するとともに、ミーティングで唱和し、職員全員で共有している。新人職員研修では理念の持つ意味や思いを説明し、理念への理解を促している。職員は勉強会でユマニチュードやパーソン・センタード・ケアを学び、寄り添うケアを実践し、利用者のやすらぎに繋げている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | ご利用者と近隣の公園への散歩に行き、交流を図っている。地域行事への参加はコロナ禍で休止しているが、広報誌「すまいる」を地域の拠点(郵便局・コミセンなど)に配布し、情報発信している。 | コロナ禍以前は、校区の運動会・敬老会・夏祭りに参加したり、「みゆきの里」の夏祭りに多くの地域の方の参加を得るなどして交流が行われていたが、現在は中止されている。広報誌「すまいる」を地域の郵便局・コミュニティセンター・スーパーなどに配置して、ホームの活動情報を発信している。コロナが収束して認知症カフェを再開できるようになったら、地域の相談センターとしての機能も果たしたいと考えている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | コロナ禍で月2回の認知症カフェ「ひまわり」は休止している。見学者や面会ご家族に対して、認知症の方への支援方法の助言やご家族の思いを傾聴している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回(年6回)グループホーム2ユニットと併設している小規模多機能ハウスで運営推進会議を書面開催し、稼働状況・利用者状況・活動報告をしている。 | 今年度は、利用者状況・活動状況の報告などの資料を委員に配布することで運営推進会議に代えている。毎回、「運営推進会議とは」や、「グループホームとは」などの説明資料を添付して、委員の理解を深めるための工夫に努めている。 | 運営推進委員に資料を配布する際は、委員から意見や要望等を出し易いような工夫があると良いと思われた。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議(書面)で地域包括支援センターと連携している。また、必要時に熊本市の介護事業指導室の担当者とは連絡を取り、連携を重ねている。また、市の介護支援相談員はコロナ禍で休止となっている。 | 市担当者には、質問・相談等気軽に行うことができ、適切に回答を得ている。今年度は特に、コロナに関してゾーニングやケアについてなど、情報が送られてきており、連携が図られている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束検討委員会を設置し、月1回の会議の場を設け、検討・見直しを行い、身体拘束0件を継続している。また、職員研修(ネット研修)で身体拘束についての学びの機会を持っている。 | 身体拘束検討委員会でセンサー使用の必要性の有無を検討したり、みゆき園グループでの身体拘束の研修に参加して拘束のないケアについて学んでいる。また、ユマニチュードの考え方が職員に浸透するように努め、拘束のないケアに取り組んでいる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待防止について、職員研修(ネット研修)で学びの機会を持ち、虐待防止への意識付けに努めている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 権利擁護について、職員研修(ネット研修)で学びの機会を持っている。また、ご利用者の後見人への状況報告(日常報告や写真の送付)を行っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約書や重要事項説明書の内容を丁寧に説明し、十分な理解が得られるよう努めている。また、介護報酬改定時には同意書など文書説明で承諾を得ている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 事業所玄関に意見箱を設置し、ご意見を掲示できるよう整備している。また、事業所内での苦情検討委員会で予防策の検討や法人全体で苦情解決第三者委員会を開催(書面)している。 | 家族の面会やサービス担当者会議への家族の参加は、主にオンラインで行っており、その他の家族の意見・要望等は電話で聞くことにしている。毎月、広報紙「すまいる」と入居者の写真、近況を記したコメントを請求書と一緒に送付し、家族の安心に繋げている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 2ユニット合同で月1回、定期ミーティングを開催(書面開催含む)し、ケアや業務内容だけでなく、労務管理等についても意見交換をしている。また、随時、個別面談を行い、意見を聞く機会を持っている。 | 管理者は、ミーティングや個人面談の機会に、ケアに関することや業務改善、労務管理等について意見交換をしている。コロナ禍で職員が手薄になった時は、入浴回数を見直したり、職員が入居者の散髪をしたりと、意見を出し合いながら、業務に支障がないよう工夫している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 人事考課制度を導入し、各個人の目標や達成項目を評価している。また、処遇改善の上位加算の算定や労働安全衛生委員会による職場ラウンドで職場環境の整備に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | キャリアラダー制度を導入し、各職種の各レベルに応じた目標に向けての研修参加やスキルアップを図っている。また、コロナ禍において、オンライン研修の環境整備に努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 老施協の研修・大会や地域密着型サービス連絡会への参加、他事業所の見学などにより、交流と情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 見学を受け入れ、事業所の雰囲気を見て頂く機会を設けている。また、入居前事前面談を行い、生活歴や生活環境など、詳細に情報収集し、職員に周知している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前事前面談、入居時面談において、ご家族から、これからの生活に望むことの聞き取りを行い、入居後も面会、電話連絡、広報誌の配布、月1回の書面による報告で情報提供を行っている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人の現状を確認し、医療機関等からの情報とご本人、ご家族の要望を聞きながら、計画作成担当者を中心に多職種でアセスメントし、支援内容を決定している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ユニット毎で食事の準備や片付け、洗濯物干し・畳み、菜園づくりなどを協働で行い、職員とご利用者の双方向の関係性を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族へ受診対応や生活用品の買い物を依頼するなど、ご本人との関係性が途切れないように工夫している。広報誌で活動や生活が見えるよう情報発信に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナ禍で面会制限しているが、窓越しやオンラインの面会でご家族との交流機会を持っている。また、ご自宅への一時帰宅や地域への外出行事で馴染みの場所との関係継続を支援している。 | コロナ禍以前は定期的に家族と一緒に馴染みの美容室に出掛けたり、併設の小規模ホームやデイサービスの知人に会いに行くなどして、馴染みの関係継続支援を行っていた。またコロナ禍で外出が制限される中、ドライブに出掛けた際に自宅近くまで寄り道をして様子を見たり、物を取りに一時帰宅するなどして、馴染みの場所に出かける支援に努めている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ユニット毎やユニット合同で体操やレク、季節行事の時間を持ったり、食堂座席の配置を工夫し、ご利用者同士の関係性が継続できるよう支援している。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 利用終了後に生活されている施設や病院へ連絡をとり、経過をフォローしている。また、必要に応じて施設の紹介や相談支援をしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | サービス担当者会議やモニタリングにおいて、アセスメントを行い、心身の状況把握に努め、支援内容を検討している。また、日々の関わりの中で、ニーズを把握し、ご家族協力のもと、個別対応を行っている。 | 「夢プラン」と称して入居者が今やりたいことを聞き取り実現する取組を行っており、最近はおはぎづくりやどら焼きづくりが行われている。思いを言葉で表現することが難しい方は、以前の情報や問いかけへの反応、瞬きなどから思いを推し量る努力をしている。また、レース編みが好きだった方にはかぎ針とレース糸を準備したり、お手伝いが好きな方にはゴミ捨てのお手伝いをお願いしたり、お酒の好きな方には時々ノンアルコールを提供するなどして、好きなことや得意なことを継続できるよう支援している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご家族の協力のもと、自宅での生活の様子や生活環境の聞き取りを行い、基本情報をまとめた書類を回覧し、職員への周知を図っている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | アセスメントにより、24時間シートを作成し、1日の暮らしを視覚化している。また、ユニット合同ミーティング時やサービス担当者会議にて情報共有し、現状を把握できるよう努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | サービス担当者会議やケース記録などで情報収集し、モニタリングをもとにミーティングや業務内で対応策を多職種検討している。書面や口頭にて情報共有し、介護計画へ反映させている。 | 担当職員が3か月ごとに行うモニタリングや、ケース記録・多職種からの情報をもとに、家族の意向を踏まえて半年ごとに介護計画を見直している。計画作成にあたっては、それぞれがその人らしく生活できるよう、個性が出るプランとなるよう心掛けている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 24時間シートを活用し、日々の様子をケース記録に記載している。特記事項については申し送りノートを活用し、職員間で情報共有や周知徹底できるよう努めている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご本人やご家族と相談しながら、通院送迎や入退院・入退居支援、コロナ禍による面会制限に対しては、オンライン面会の実施など、状況に応じた個別対応を行っている | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | コロナ禍のため、地域行事やボランティアの受入は休止している。地域との関わりとして、近隣の公園までの散歩を行っている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 同敷地内の協力病院の他、他医療機関の専門医への受診付き添いや訪問診療との連携を図っている。また、年1回健康診断の実施やインフルエンザやコロナワクチンの支援をしている。 | 本人・家族の要望に沿い、ほとんどの方が協力病院をかかりつけ医としている。定期的に通院・訪問診療が行われており、看護師を通して連携が図られている。夜間・緊急時も協力病院に連絡して指示を仰いで対応しており、適切な医療受診が行われている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 常勤看護師を配置しており、介護職員の気づきや相談に対応し、ご家族・医療機関・関係事業所への連絡・相談・情報交換に努めている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | ご利用者の入院時、入院先の医療機関への情報提供を行い、関係機関との連携に努めている。また、適宜医療機関へ面会・状態確認に出向き、退院に向けた情報交換を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に重度化指針について書面で説明し、同意を得ている。重度化が予測される方へは、ご家族や主治医と今後の方向性等について協議している。また、今年度、初めて看取り介護を実践。訪問診療や訪問看護との連携に努めた。 | 入居時にホームでの重度化指針について家族に説明し、延命治療等について事前指定書で意向確認をし、重度化の状況に応じて再度意向確認を行うこととしている。ホームは、今年度初めて看取りを行っており、訪問診療・訪問看護と連携し、看取りマニュアルの見直し・確認や看取りケアの研修、家族との話し合いを充実させ、家族に感謝される看取りができた。看取り後は経験の振り返りを行い、次に繋げている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時の対応など、マニュアルを整備しており、随時見直しを行っている。また、定期的に職員研修(ネット研修)で学ぶ機会を持っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 防災マニュアル(火災・地震・風水害)を作成している。コロナ禍で実践型の避難訓練は未実施だが、机上訓練を実施している。また、防災委員会で防災の啓発をしている。 | 防災マニュアルを作成しており、併設施設の協力体制が整えられている。緊急時はグループラインで一斉に連絡が伝わるようになっている。地域の自治会やみゆき園グループのボランティアの方たちも、役割を持って訓練に参加している。火災の他、地震・風水害の訓練も行っており、BCPも作成されている。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | ご利用者の尊厳の保持のため、各個人に合わせた声かけや話題提供、好みに合わせた食事提供や散髪などの支援を実施している。また、プライバシーに関する職員研修(ネット研修)で学ぶ機会を持っている。 | 研修で、利用者の尊厳やプライバシーの尊重等について学び、言葉掛けや対応に留意している。トイレの外側にカーテンをつけ、介助時は外からの視線を遮り、浴室はすりガラスにし、見えないようにサイドにカーテンを取り付けるなど、設備にもプライバシーへの配慮が見られた。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 年間行事やレク活動など、本人の意向を確認しながら参加して頂いたり、個別対応(散歩・家事・趣味活動など)をしている。また、ユニットを移動して過ごすなど、恪気応援の対応に努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 24時間シートによる1日の暮らしや毎月の予定は設けているが、活動や参加は本人の意思とし、個人のペースに合わせた支援を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 本人の希望に応じて、理美容の依頼を代行している。コロナ禍で外出機会が少なくなっているが、年間行事や受診等の外出の機会でお化粧や整髪など、おしゃれができる機会を設けている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 手伝いが可能な方には、食事の準備・配膳・下膳・片付けを職員と一緒にやっている。また、おやつ作りを通し、作る楽しみを味わえる機会を設けている。 | 食事は「みゆきの里」栄養課でクックチルという調理法で3～4日前に作られ、当日、解凍・再加熱して提供されている。常に3～4日分の食事が確保され、災害時にも役立っている。栄養課職員が嗜好調査を行ったり、月2回ホームに出かけ、入居者に声掛けしたり食事の様子を見て、食事に反映している。季節に応じた行事食や、お寿司バイキング・ケーキバイキングなどの楽しみもある。 | ホームの職員は入居者と同じ食事を食べていないとの事であり、一人でも同じ食事を摂ることで入居者との会話が広がったり、味・硬さ・食べ易さなど食事についての気づきが生まれるものと思われる。 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 毎食の食事摂取状況(様子・量)を把握しており、水分量も目安を定め、好みの飲み物を提供している。また、定期的に体重測定を実施し、管理栄養士(栄養管理体制加算算定)、言語聴覚士、看護師と連携し、栄養状態の把握に努めている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔ケアを実施し、磨き残しなど必要な支援を行っている。口腔衛生管理体制加算を算定し、歯科からの助言を頂いている。また、個別に訪問歯科による治療を依頼している。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄の有無を確認できる記録を残し、排泄リズムの把握に努めることで、自然排泄へ繋げられる働きかけを行っている。 | 入居者の排泄パターンを把握し、24時間シートに反映して、トイレ誘導やおむつ交換など、個々の状態に応じた支援をしている。状態の変化により、排泄用品の変更について検討し、試供品等を利用して使い心地などの様子を見ながら家族にも相談し、より快適な排泄の環境となるよう支援している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便状況を記録に残し、食事摂取量や水分量と併せて把握できるようにしている。運動や牛乳の提供等の工夫をし、必要に応じて内服薬の与薬を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 基本的に各個人の入浴日を決めて支援している。本人の状態や希望に応じ、曜日や時間の調整を行うなど、柔軟に対応している。 | 入浴は基本的に週2回、希望があればそれ以上入浴することも可能である。1階に特浴、2階に一般浴があり、全入居者が浴槽に浸ることができる。入浴剤を使用し、肌の様子などを確認し、ワセリンを塗って皮膚の保護に努めており、リラックスして昔の話が弾むなど、楽しい入浴となるよう支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 部屋に湿温度計を設置し、好みの枕や毛布等の持ち込みを推奨し、安眠へ繋げられるよう生活環境を調整している。不安時は眠れるまで傾聴や傍にいて安心して眠りにつけるよう支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 処方された服薬情報をファイルし、看護師を中心に管理している。随時、看護師から薬の種類や用法の説明を受けている。服薬準備ではダブルチェックを行い、誤薬が起きないように努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 生活歴や個人の能力に合わせたレク活動(園芸・手芸・カラオケ等)、役割のある活動(家事など)、運動(体操・個別運動プログラム)を行っている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 敷地内や近隣の公園へ散歩に行っている。また、季節に合わせて車での外出の機会を設けている。 | 日頃は、散歩や日光浴で気分転換を図っている。また、コロナ禍でも状況を見ながら、初詣や桜の花見、紅葉見学などに出かけており、外出を楽しめるよう支援している。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 基本的にご家族管理であるが、お小遣い程度の金額を管理されている方もいる。必要時には事前にご家族へ説明し、都度持参して頂くようにしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご家族の協力を得て、希望に応じ電話連絡をし、安心して頂けるように支援している(固定電話・携帯電話・オンライン電話を準備)。手紙が来ることはあるが、返信はしていない。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有の空間は外部業者に委託し、清掃している。食堂は毎回清掃し、清潔保持に努めている。また、リビング壁面に広報誌や食事メニューを掲示するなど、居心地の良い空間になるよう配慮している。 | 広いリビングには、テーブル・椅子・テレビ・ソファ・観葉植物などが置かれ、窓からは公園や駐車場など、広々とした景色を眺めることができ、開放的である。入居者は好きな場所に座ってテレビを見ており、寛いでいる様子が伺えた。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビングには椅子やテーブル、テレビ前にはソファを準備し、好きな場所で過ごせる環境を整備している。また、観葉植物やカーテンを使用した他者の目を気にせず、くつろげる空間づくりを行っている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 仏壇、タンス、ラジオ、毛布など、自宅で使い慣れた物を持参して頂き、居心地の良い環境づくりに努めている。 | 各居室にはベッド・クローゼット・整理ダンスが備え付けられており、仏壇・小さなテーブル・お人形やラジオなど、それぞれに馴染みの物を持ち込んで、居心地の良い部屋作りとなっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 出来ることや分かることを最大限活かせるようリスクマネジメントの観点から福祉用具を活用しながら安全面での配慮を行っている。 | | |